

平成28年11月1日

八枝小学校 学校だより「やさしく、つよく、えがおがすてきな八枝の子ども」

学校だより

学力特集号

八 枝

【 学 校 教 育 目 標 】

思いやりの心を持ち、自ら学び考える

心身ともに健康な児童の育成

文責 校長 弥永 和利

平成28年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」については、平成28年4月19日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

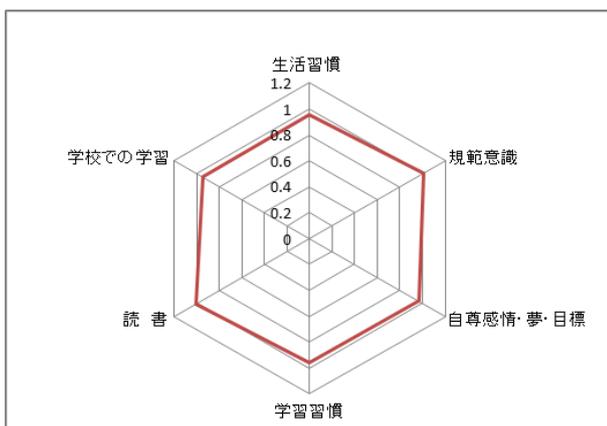
この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

学力の定義や捉え方は様々であり、一概に論じることはできません。この学力調査もそのときの学力の一部を表しているに過ぎませんが、この結果も客観的な指標の一つであると考えます。本校では調査結果も重視し、今後も効果的な指導や学力向上につながる教育活動が実践できるように努めてまいります。ご家庭でも家庭学習チャレンジハンドブックなどを参考にされ、お子様の学習をご支援いただけましたら幸いです。

1. 教科に関する調査結果の概要

カテゴリー	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語A	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の読み書きは、学校での学習や家庭学習の効果があり、正答率は上がっている。 ローマ時を書いたり、読んだりする問題に課題がある。日常生活の中で身の回りにあるローマ字に意識させて読んだり、定期的に行ったりする学習を繰り返す必要がある。 	下回っている
国語B	<ul style="list-style-type: none"> グラフを基に、分かったことを的確に書く問題の正答率は高かった。 活動報告文において、課題を取り上げた効果を捉える問題の正答率が低かった。長文に慣れ、どこが聞かれていることか、必要なことは何か、を判断する力が必要である。 	上回っている
算数A	<ul style="list-style-type: none"> 計算力については、学校での復習やドリル学習、家庭学習の取組の成果が見られた。 「単位量当たりの大きさの求め方の理解」や「図形の構成要素に着目した図形の構成」の正答率が低く、今後も定着を図るための努力が必要である。 	上回っている
算数B	<ul style="list-style-type: none"> 数量関係の問題の正答率は高かった。しかし、ここでも図形の問題の正答率が低く、図形に関する問題に慣れ、学習内容の定着を図る必要がある。 示された事柄が正しくない理由を書いたり、与えられた条件を基に式の意味の説明を書いたりする問題に課題がある。与えられた条件をもとに、理由や意味を分かりやすく書く力が必要である。 	上回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

- 友達の前で自分の考えや意見を発表することが苦手な児童が多い。
- 携帯電話やスマホの所持率の割合は低いが、1日当たりテレビゲームやスマートフォン等を使ったインターネット等を4時間以上している児童が多い。
- 家庭学習を一日当たり30分以下、全くしない児童の割合が大きい。また、自分で計画を立てて勉強している児童が少ない。
- 授業の中で分からないことがあったら、家の人に尋ねる児童の割合が高い。授業で分からないところがあるからといって、学習塾に通う児童は多くない。
- 家の人と話したり、家の手伝いをしたりする児童が少ない。

3. 調査結果から明らかになった課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組（全校で・学年で・学級で）

- ・ローマ字を3年生以上で定期的に、朝自習等を利用して書いたり、読んだりする練習に取り組む。特に、高学年では外国語活動の学習の中で取り組む。
- ・各学年で「図形」、5年生以上で「単位量当たり」に関する問題を、朝自習等を利用して過去問題やアシストシート等を利用して何回も復習に取り組む。
- ・全学年で、どの教科でも話し合い活動の場を意識して設定し、児童が意見を交換したり、発表や説明をしたりする機会を増やす。また、キーワード等をもとに説明文や振り返り文を書いたり、発表したりする時間を授業で確保し、自分の考えを書いたり、発表したりすることを習慣化する。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・自主学習も含め家庭学習の充実に努める。また、継続して「家庭学習チャレンジハンドブック」を活用するメール配信も行う。本校独自の家庭学習マイスター賞を企画し、学期ごとに表彰し、家庭学習の取組を啓発する。
- ・学校通信やいっせいくんメール等を活用し、家庭教育学級の紹介や地域行事の紹介を発信し、家族で過ごす時間を推進する。
- ・ICTサポーターを活用し、学期ごとに情報モラルやマナーの向上に向けての啓発学習等に取り組む。また、スマホや携帯電話、インターネット機能付きゲーム機等をお子さんが使用する際の注意喚起を促すプリントを配布する。